



に誘われ、家族連れ、中年夫婦らが畳に上がり、卓を埋めていく。江戸時代、呉服屋の店蔵だった木造2階建ては20人も入ればいっぱいだ。



追分の分岐点、生社会の実現だが、心の観光情報発信など、いろいろな役割を担う。備え付けた。 ■昔から地域おこしはあつたが…

「桑折町飛翔21委員会」といった市民グループが少なくない。 エネルギーは2006

年12月に住民と行政の協働で発足した「桑折地区歩いて楽しめる地域づくり懇談会」（会長＝

女性の表情がいまいき点づくり事業」として町商工会がかつての宿場町は元気に見えてくる。子の復活をと県、町から計1000万円の補助を受

黒光りした太い柱や梁が通じたのか1年たために張られた本日のメニュー

今年5月24日、来訪者は1万人を超えた。まとめ

へ伸びる奥州街道、山形町長がまだ町政に携わる

この始まりは、林王

「桑折宿まちなか街道」で線り広げる「桑折御蔵」は、そのモデルとい

実際に切り盛りするのは連合婦人会、交通安全

母の会、日赤奉仕団、警青の会、商工会の女性部

など9団体で構成する桑折町女性団体連絡協議会

「REPRISE21」が引き継ぎ、9回目の来年

日本風景街道 一輝く人たち

5



おもてなし処としてよみがえった江戸時代の店蔵「桑折御蔵」(写真①)は地域のコアとして老若男女でにぎわう(同②)

「どうぞ、お上がりください」。旧・奥州街道に面して建つ「桑折御蔵」に女性の声が響く。7月最後

だ。年末年始以外、当番制で朝の10時から午後3

時まで、営業を続けているというから、すごい。蔵はおもてなし処、ア

目指すゴールは男女共

この事業は花火続行を願う若者たちが結成した

「潜在資源を顕在化を学ぶ大学院生・大学生、付加価値をつけて次

生。懇談会と協力し、奥州街道沿いの空き店舗を

社会づくりをめざす私た「カフェ図書館」に活用

ちの義務です。10年後、したいという。

今年3月に中村良夫・東京工大名誉教授を囲ん

20年後に『お父さんたちは何をしてたのよ』と子供に問われたとき、きち

した。共同作業が進む。その発想が面白い。

本を町民から集める。むろん夕夕で。整理して

配架し、アートギャラリー

10月に

「大学生の参入も」蔵で話していると、東一として使う。町民の

集える場に、シヤツサークル「仙台都市デザ

ター通り」化している街

今年10月のオープンをめ

「急がななくちゃあ」



往時の隆盛をしのばせる旧伊達郡役所

20代の参加は関わる人「販わい創出部会」「桑

の平均年齢を一気に押し

下げる。その活気を呼び

「REPRISE21」が引き継ぎ、9回目の来年1月2日、町民の花火参加費で約800発を打ち上げる。住民の幸せ、ふるさと再認識、青少年の地元愛着心の育成などを願う。

この事業は花火続行を願う若者たちが結成した「REPRISE21」が引き継ぎ、9回目の来年1月2日、町民の花火参加費で約800発を打ち上げる。住民の幸せ、ふるさと再認識、青少年の地元愛着心の育成などを願う。

蔵の利用、冬の花火…

時代は参勤交代の宿場町としてにぎわった。俳人芭蕉の足跡もある。明治時代には伊達郡役所(国指定重要文化財)が置かれ、北西部にそびえる半田山(863.3)

味だ。隣りの福島市から訪れた母娘連れは「江戸時代の街道レストランっ

心がうれいすね。お金では買えませんとい

の半田山(863.3)が見向きもなかった住民まで「資金援助するの

で続ける」と言い出した(町長)と、いまなお驚きをもって沈滞気味の町に与えたインパクトを思い出す。

この事業は花火続行を願う若者たちが結成した「REPRISE21」が引き継ぎ、9回目の来年1月2日、町民の花火参加費で約800発を打ち上げる。住民の幸せ、ふるさと再認識、青少年の地元愛着心の育成などを願う。